

高分子学会ユニチカ修斉会助成報告書

2019年9月26日

公益社団法人高分子学会  
会長 加藤 隆史 殿

国際会議等の名称 (日・英)	日台二カ国高分子シンポジウム 2019 Japan-Taiwan Bilateral Polymer Symposium2019 (JTBPS2019)
主催団体の名称 (日・英)	東京工業大学 Tokyo Institute of Technology
開催期間	2019年7月23日(火)～2019年7月27日(土)
会場	島根県立産業交流会館(くにびきメッセ)
主 題 (主題がある場合は記入)	スマートポリマー材料～基礎から先端研究まで Smart Polymeric Materials From Fundamentals to Pioneering Research
責 任 者	(フリガナ) 氏 名 イシゾネ タカシ 石曾根 隆
	所属機関・職名 東京工業大学物質理工学院応用化学系・教授
参加者数	計 58名((国内) 34名、(海外) 24名) (申請時の予定参加者数(国内) 35名、(海外) 25名)
参加国数	2ヶ国(日本を含む)
助成金額	30万円

## 1. 実施事業の目的

助成対象となった第10回日台二カ国高分子シンポジウム（JTBPS2019）では、日本と台湾両国における高分子の合成、構造・物性、機能化に関する総合的な研究討議を通して、次世代に向けた機能性高分子材料の開発、革新的なデバイス創製技術の開発、次世代スマートポリマー材料の分子設計に向けた指針をまとめることを目的とした。具体的には、以下の項目1～3について、日本と台湾における第一線の高分子研究者が、系統的に最新の成果を紹介し、活発な討論によって、新たな研究展開を模索することを目的とした。

1. 最新精密合成法を用いた革新的な機能性高分子材料の合成
2. 効率的な自己組織化による規則的微小構造構築と機能化
3. スマートポリマー材料の新しい物性・特性解析法の開発と次世代材料への展開

2. 実施事業の内容と成果（主たる招待講演者、若手研究者や学生の交流、女性研究者キャリアアップのための取組みの成果、高分子学会会員への寄与など）

2019年7月23-27日、島根県松江市くまびきメッセにおいて、第10回日台二カ国高分子シンポジウム（JTBPS2019）を日本側34名（教員17名、学生17名）、台湾側24名（教員15名、学生9名）の計58名の参加者の下、開催した（<http://www.matsue-cvb.jp/result/index.php?e=19>）。このJTBPS2019では、高分子の合成、構造・物性、さらには機能化・デバイス創製という、基礎から応用にわたる両国の研究分野の研究者が一同に会して、密度の濃い討議を行うことができた。

30件の口頭発表では、日本側15名（佐藤敏文教授（北大）、森秀晴教授（山形大）、横山英明准教授（東京大）、早川晃鏡教授（東工大）、井上正志教授（阪大）、井原栄治教授（愛媛大）、比嘉充教授（山口大）、田中敬二教授（九大）など）、台湾側15名（Wen-Chang Chen教授（国立台湾大）、Hsin-Lung Chen教授（国立清華大）、Jiun-Tai Chen教授（国立交通大）、Jing-Cherng Tsai教授（国立中正大）など）にご講演いただいた。

若手研究者として、飯田裕基准教授（島根大）、桑折道済准教授（千葉大）、春藤淳臣准教授（九大）、難波江裕太助教（東工大）、後関頼太助教（東工大）、磯野拓也助教（北大）、淵瀬啓太博士（産総研）、Shyh-Chyang Luo准教授（国立台湾大）、Cheng-Liang Liu准教授（国立中央大）、Chien-Lung Wang准教授（国立交通大）、Yu-Cheng Chiu助教（国立台湾科技大）、Yi-Cheun Yeh助教（国立台湾大）、Jung-Yao Chen助教（国立中正大）、Chen-Tsyr Lo助教（国立中山大）には新しい世代の高分子研究に関してご発表いただき、参加者同士の活発な質疑応答や、新たな国際共同研究を始める議論につなげることができた。

また、特に性別を考慮してプログラムを組んだ訳では無いが、日台合わせて8名の女性研究者が参加し、それぞれ口頭発表、ポスター発表をいただくことで、女性研究者キャリアアップのためにも大きく貢献できた。両国の大学院生を合わせて23件のポスター発表も活発に行い、次世代の若手研究者交流を促進し、親日的あるいは親台湾的な若手研究者を多く醸成することにも寄与できた。参加した学生たちは、コーヒブレイクや夕食時にも相手国の参加者と積極的に話そうとしていた姿が印象的であった。これまでの日台シンポジウムにおいて若手研究者として参加した研究者が、現在では両国の高分子科学研究の中心メンバーとして活躍していることも、こうした若手研究者の交流の重要性を示している。初めての参加者も多かったことから、両国研究者の相互理解、親善にも非常に貴重な機会と捉え、学会後には松江城や出雲大社へのエクスカージョンを企画した。学門分野以外に、日本文化や歴史についても新たに学んでいただき、日本の地方都市の雰囲気を感じてもらったことで、研究レベルでも個人的にも一層の交流が進んだと主催者として考えている。

以上、高分子学会ユニチカ修斉会よりご助成いただいたことで、本シンポジウムを成功裏に終えることができ、主催者として非常に感謝しております。助成金は、施設使用料と予稿集印刷費に有効に使わせていただきました。誠にありがとうございました。